

事業シート

事業名		姉妹都市・友好都市交流事業	事業開始年度	1986年
上位施策事業名		つながりを大切にしまちづくり	担当局・部名	市民生活部
根拠法令等		姉妹都市提携宣言書等	担当課・担当者	地域振興課 文化交流担当
事務区分		☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務	作成責任者	須田英樹
実施の背景		新潟県佐渡市及びドイツヴォルフスブルグ市（以下ヴォ市）とは、市制20周年事業の一環として、行政が主導となり姉妹都市提携を行った。佐渡市とは、埼玉県には海がないことから、海があり交通の便が良く、市民交流が図りやすいこと、観光や農林水産業の振興を図っていることなどから、1986年10月に入間市の呼びかけに応じる形で提携をした。ヴォ市とは、武蔵野音楽大学を通じミュンヘン音楽大学に候補を挙げてもらい、都市と縁、文化が調和した入間市に似た都市として推薦を受け、1987年10月に提携をした。 奉化区は、市民主導の団体による民間交流から始まり、交流が活発化したことで行政としても友好都市提携を行い、更なる交流を図る機運が高まり、2000年5月に提携をした。 異文化交流による相互理解や国際交流をはじめとする地域活動に積極的に参加する人材を育成すること等を目的に、ホームステイによる青少年交流をヴォ市とは1996年、奉化区とは2005年に開始した。佐渡市とは市民文化の向上に資することを目的に、1987年から芸能団体や市民による文化やスポーツ、産業、青少年、保養所等の様々な分野での相互交流を開始した。		
目 的 (何のために)		・海外都市との青少年の交流を通じて、若い世代の異文化理解や相互理解を促進し、国際交流をはじめとする地域活動に積極的に参加する人材を育成する。 ・市民同士の草の根の交流によって、国際理解の促進や国際社会の平和、姉妹・友好都市の関係にある都市同士の発展に寄与する。 ・芸能団体、物産、保養所、市民同士の相互交流を通じて、市民文化の向上を図る。 ・職員間の交流による姉妹都市との連携を強化し、両市の更なる交流を推進する。		
	対 象 (誰・何を対象に)	入間市民、佐渡市民、ヴォ市市民、奉化区民	対象者数（全住民に対する割合）	
			市内全市民・姉妹都市全市民 人 (100%)	
	実施方法	☒ 直接実施		
		☐ 業務委託 又は ☐ 指定管理 （委託先又は指定管理者： ）		
		☒ 補助金〔直接（間接）〕（補助先：入間市国際交流協会 実施主体：左記に同じ）		
		☐ 貸付（貸付先： ） ☐ その他（ ）		

事業シート

事業名			
姉妹都市・友好都市交流事業		事業開始年度	1986年
事業概要	事業内容 (手段、手法など)	事業内容	
		各姉妹・友好都市交流について、入間市国際交流協会と連携して事業を行っている。 【佐渡市交流事業】 ①佐渡市及び佐渡市の姉妹都市である国分寺市の職員間の事務担当者会議（会場3市輪番 2025は佐渡市） ・産業、教育、文化など様々な分野における各市の取り組みを共有 〔事業費〕111千円（職員2名旅費、手土産代） 〔活動指標〕会議で共有した分野の数、会議の回数 ②入間の海事業（サマーキャンプ（2019実施）以外の費用は国際交流協会負担） ・佐渡市の海を体験する機会や佐渡を第2のふるさとと感じてもらえるような青少年サマーキャンプ、バスツアー、物産展等の取り組み 〔事業費〕402千円（サマーキャンプ随員職員1名の旅費、派遣団体への補助金、手土産代） 〔活動指標〕各イベントへの参加者数、物産展での購入者数 ③各種事業の周知（費用負担なし） 保養所制度や万燈まつり訪問団（伝統芸能披露、物産展）受入れ事業の周知等 〔活動指標〕保養所の利用者数 【ヴォ市交流事業】 ①青少年交流事業（派遣と受入れと交互に原則隔年で実施。2024派遣、2025受入れ予定） ・青少年（高校生～大学生 定員8名）を1週間派遣または受入れし、各自学習テーマを定めての学習やホームステイ、自然、文化、教育施設見学等による異文化体験を実施。 ・受入れ時は行程の作成及び案内も実施。 〔事業費〕派遣：1,029千円（随員職員1名及び通訳1名の旅費及び日当（通訳料）、空港までのバス借上料） 受入れ：690千円（職員旅費、通訳料、ヴォ市随員職員2名の宿泊代、行程中のバス借上料） 〔活動指標〕派遣事業への応募者数、派遣後の国際交流関係の活動者数 ②公式及び市民訪問団交流事業（原則隔年実施。2023公式訪問団派遣、2024万燈まつり訪問団受入れ） ・ヴォ市での記念式典等へ市長等の代表者及び職員の派遣 ・万燈まつりでの伝統的なダンス披露や入間及び日本の文化体験等による市民相互交流や記念式典への招待。市内・近隣の自然や文化、教育施設の見学や案内、行程作成。産業等の意見交換会の実施。 〔事業費〕派遣：4,166千円（随員職員及び通訳等の旅費及び日当（通訳料）、空港までのバス借上料） 受入れ：1,477千円（職員旅費、通訳料、ヴォ市訪問団の宿泊代、行程中のバス借上料） 〔活動指標〕受入れ時の市民交流行事への参加者数 ③人的交流を伴わない交流事業（2021～2023音楽文化交流、2022市長オンライン会談、定例的な文書や①～③事業実施に伴うやりとりの翻訳）（翻訳以外の費用は国際交流協会負担） ・音楽文化交流では、両市の少年少女合唱団が同一曲やテーマで合唱及び対談を行い、一つの動画作成を実施。 〔事業費〕296千円（翻訳料） 【奉化区交流事業】※新型コロナ流行期以降、人的交流を停止。 ①青少年交流事業（派遣と受入れを交互に原則隔年で実施。2018派遣、2019受入れ） ・青少年（中学生～高校生 定員8名）を4泊5日で派遣または受入れし、ホームステイや現地の施設見学等による異文化体験を実施。 〔事業費〕派遣：374千円（随員職員1名及び通訳1名の旅費及び日当（通訳料）、空港までのバス借上料、派遣に伴う翻訳料） 受入れ：415千円（職員旅費、通訳料、奉化区随員職員2名の宿泊代、行程中のバス借上料、受入れに伴う翻訳料） 〔活動指標〕派遣事業への応募者数、派遣後の国際交流関係の活動者数 ②公式及び市民訪問団交流事業（直近で実施なし） ・記念式典等へ市長等の代表者及び職員の派遣及び受入れ ③寧波市児童絵画展（費用負担なし） ・寧波市主催の児童絵画展への出展募集を市内にある児童絵画教室へ実施。 〔活動指標〕絵画展への応募者数	
	関連事業 (同一目的事業等)	・佐渡市イベント交流事業 677千円（万燈まつりの参加団体が姉妹都市である佐渡市のイベントに参加し、郷土芸能等を披露することにより、入間市のPR並びに佐渡市民と相互に文化交流を図ることを目的とする。） ・入間市国際交流協会補助金 4,500千円（幅広い分野において国際交流を推進し、国際理解・親善を図ること、在住外国人の支援を図ること、姉妹・友好都市との幅広い交流を通じて、両市民間の相互理解と友好親善を図ることを目的とする。）	

事業シート

事業名		姉妹都市・友好都市交流事業								事業開始年度				1986年				
事業費 コスト		2025年度（予算）				2024年度（決算）				2023年度（決算）				2022年度（決算）				
	事業費合計	1,925 千円				2,807 千円				5,116 千円				3 千円				
	事業費内訳 (2024年度分)	■ヴォ市青少年異文化体験訪問団派遣事業 1,028,599円 ・ 随行通訳者旅費 378,633円 ・ 随行職員旅費 378,633円 ・ 消耗品 363円 ・ 通訳料 100,000円 ・ バス借上料（入間市 ↔ 羽田空港 高速料金含む）170,970円 ※参加者7名 航空運賃等合計322,833円/人（参加者負担：161,000円＋市国際交流協会負担：161,833円） ■ヴォ市万燈まつり訪問団受入事業 1,476,080円 ・ 随行職員旅費 5,410円 ・ 通訳料 150,000円 ・ 訪問団宿泊料 728,400円 ・ バス借上料（入間市 ↔ 羽田空港 高速料金含む、訪問団移動用）592,270円 ■ヴォ市訪問団派遣・受入に伴うドイツ語文書翻訳料 296,000円 ■佐渡市交流事業 5,404円 ・ 姉妹都市交流事業事務担当者会議消耗品 5,404円 会場 入間市（2025 佐渡市、2026 国分寺市）																
	人件費	担当正職員	0.6	人	4,860	千円	1.5	人	12,150	千円	1.5	人	12,150	千円	0.3	人	2,430	千円
	人件費	臨時職員等	0	人	0	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円
	人件費合計	0.6	人	4,860	千円	1.5	人	12,150	千円	1.5	人	12,150	千円	0.3	人	2,430	千円	
	総事業費	6,785 千円				14,957 千円				17,266 千円				2,433 千円				
財源内訳	国県支出金																	
		国県支出金の内容																
	地方債																	
	その他特財																	
		その他特財の内容																
	一般財源	6,785 千円				14,957 千円				17,266 千円				2,433 千円				
財源合計	6,785 千円				14,957 千円				17,266 千円				2,433 千円					

事業シート

事業名		姉妹都市・友好都市交流事業				事業開始年度		1986年		
事業実績	活動実績	【活動指標名】（実績値/目標値）			単位	2024年度	2023年度	2022年度		
		入間市国際交流協会会員数			人	445/418	418/409	409/415		
		ヴォ市青少年派遣事業への応募者数（/R元年度：直近実施年度）			人	8/10	受入事業	新型コロナウイルスのため中止		
		佐渡市保養所の利用者数（/昨年度）			人	45/29	29/49	49/9		
	単位当たりコスト	総事業費	/	事業参加人数	千円	16				
事業成果	成果目標 （指標設定理由等）	・市民の国際交流に対する関心を示す指標として、市国際交流協会会員数とヴォ市青少年派遣事業応募者数を用いた。 ・姉妹都市佐渡市に対する市民の関心を示す指標として、佐渡市保養所の利用者数を用いた。								
	成果 （目標達成状況）	【成果指標名】（実績値/目標値）			単位	2024年度	2023年度	2022年度		
		入間市国際交流協会会員数			人	445/418	418/409	409/415		
		ヴォ市青少年派遣事業への応募者数（/R元年度：直近実施年度）			人	8/10	受入事業	新型コロナウイルスのため中止		
		佐渡市保養所の利用者数（/昨年度）			人	45/29	29/49	49/9		
自己評価			廃止・凍結		国・県・広域・民間への移管	☒	要改善		現行通り・拡充	
評価の内容		国際交流協会の会員数が年々増加していることから、市民の姉妹都市交流をはじめとする国際交流事業への関心の高さがうかがえる。また、保養所の利用者数についても、2024年度に佐渡島の金山が世界文化遺産登録されたことによる影響と考えられることから、各種事業により佐渡市が姉妹都市として市民から広く認知され、関心が高いことがうかがえる。 佐渡市及びヴォ市との交流は、コロナ禍で2020～2022年度は人的交流が途絶えていたが、現在は再開することができた。この人的交流は、インターネットなどからでは得ることができない学びや理解を深め、異文化理解や文化の向上につながる事業であるため、今後も継続が必要と考える。特に青少年交流は、青少年の心の成長につながるものであると同時に、参加者が派遣後に海外活動に参加したり、国際関連の職業に就いたりするなど、目的の一つである「国際交流活動をはじめとする地域活動に積極的に参加する人材の育成」が達成されている。一方で、ヴォ市青少年派遣の応募者数は2017年度12人、2019年度10人、2024年度8人と年々減少している。2024年度については、新型コロナ流行の影響も考えられるが、渡航費用の高騰による影響が大きいと考えられる。渡航費用は、家庭の経済状況が豊かでない青少年も派遣ができるよう、旅費の半額を国際交流協会が負担している。しかし、2017年度の参加者負担が93,000円であったのに対し、2024年度は161,000円と約7万円の負担増となっている。今後、事業の継続に向けて、周知方法の見直し等、費用面以上の魅力を感じられるようなPR方法を検討する。 市民訪問団交流については、参加者や行程が特定の層に固定化しつつあるため、相互の多様な視点や取り組みの共有ができるよう、産業や行政等の様々な分野にて交流を行えるよう参加者や行程の見直しやオンラインでの交流など新たな方法での実施を検討する。 奉化区との交流は、渡航ビザの免除停止や航空便の減少といった国際情勢の影響で人的交流が中断していた。しかし、ビザの免除措置が再開されたことを受け、青少年交流を主軸とした人的交流の再開について検討する。								
課題	2024年度	ヴォ市青少年派遣事業における渡航費及び参加者負担金の高騰による応募者の減少が見られる。参加者の負担軽減や費用以上の魅力を感じられるような事業のPR方法の検討が必要である。また、青少年派遣者の事業参加後の活動状況について、居住環境の変化等により一部のみの把握となっているため、事業の効果を検証するため、派遣後も青少年派遣及び受入れの際の協力依頼等により関係を継続する方法を検討する。								
	2025年度	・海外渡航費の高騰から人的交流のあり方（オンライン交流等）を検討する。 ・奉化区との交流について、ビザの免除措置が再開されたことを受け、人的交流の再開について検討する。								

事業シート

事業名	姉妹都市・友好都市交流事業	事業開始年度	1986年
今後の予定	今後も異文化交流による相互理解や国際交流をはじめとする地域活動に積極的に参加する人材の育成や、グローバル化が進む社会に適応できる人材の育成を目指し、より効果的な姉妹・友好都市交流のあり方を検討する。 ・上記の目的やこどもまんなか社会の実現に効果的であると考えられる、各市との青少年派遣及び受入れを主軸に継続をする。 ・佐渡市、国分寺市との市職員事務担当者会議は、費用や人的負担の軽減のためオンライン形式での実施を検討する。 ・公式訪問団派遣事業や万燈まつり訪問団受入事業は、周年事業を中心とした姉妹・友好都市の繋がりを強く感じられるような事業の実施や他分野での先進的な取り組みを共有できるような行程を取り入れられるよう検討する。あわせて、オンラインや書簡等での対応も検討する。 ・奉化区交流事業は、渡航ビザの免除措置が再開されたため、青少年派遣及び受入れ事業の再開について、社会情勢も鑑み慎重に検討する。		
比較参考値 (他自治体での類似事業の例など)	・狭山市（人口同規模）…姉妹都市：海外3都市（アメリカ、中国、韓国）、国内1都市（新潟県）。公式訪問関係は行政が、その他（市民団体の交流等）の交流は狭山市国際交流協会（2024年市補助金200万円）が主に担当（予算負担）をするという事業実施の住み分けをしている。 姉妹都市交流事業の具体例としては、新潟とは行き来を伴う交流を市の各部署で毎年実施（大茶会への招待、雪まつりへの訪問等）している。海外都市との交流は、市制施行記念式典など周年記念の際にアメリカ及び韓国との公式訪問団の行き来をしている（中国とは新型コロナ流行以降交流を停止）。協会事業として、アメリカ及び韓国と市民訪問団のホームステイによる交流を交互に概ね毎年実施している。 行き来を伴わない交流は、いずれの都市とも直近では実施をしていない。		
特記事項			